研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-540		21-330	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Treatment of alcohol use disorder in patients with liver disease
肝疾患患者におけるアルコール使用障害の治療について

執筆者

Anette Søgaard Nielsen [1], Gro Askgaard [2], Maja Thiele [3]

掲載誌

Curr Opin Pharmacol. 2022 Feb;62:145-151. doi: 10.1016/

キーワード	PMID
アルコール使用障害、アルコール性肝疾患	34999372

要　旨

アルコールは世界の死亡の原因の 5%以上を占め、肝臓関連の死亡の半分以上を引き起こしている。アルコール使用障害識別テスト（AUDIT）は、危険な飲酒やアルコール依存症があり、心理社会的・薬理学的アルコール治療が有益な患者を検出するために使用することができる。心理社会的治療には、短期間の介入や認知行動療法から実験的な神経心理学的治療まで、さまざまなものがある。心理社会的介入は、第一選択薬物療法であるアカンプロサートやナルトレキソンと組み合わせることができる。肝疾患の患者にとって、禁酒は生存率を高めるので、重要な治療目標である。Acamprosate は、治療必要数が 12 で飲酒への再発を防ぐので、良い選択である。アカンプロサートやナルトレキソンに肝毒性の高いリスクを示す報告はないが、エビデンスは乏しい。我々は、肝疾患患者におけるアルコール使用障害のスクリーニングを精力的に行い、心理社会的介入を行い、薬物療法で補完することを推奨する。